

神妙な顔の会社代表

満員の会場、盛んな拍手

水俣市協
市民大
展會

二十九日水俣市体育館で開かれた水俣市発展市民協議会の結成大会は、二千五百人もの市民を招き、予想以上の盛況となった。これにより、今後の動きが注目される。

○：従来、どんな会合でも満員になった例がないといわれる市体育館もこの日はかなりはほぼ満員。水俣病問題の早期解決と再建計画の遂行を望む市民の感情が多くの市民に足を運ばせる結果となったのだらうが、出席者の大半はチソの動向でかなり小なり影響をうける商工団体の人たち。水俣病患者の救済もさることながら、出席者の関心はむしろ再建計画にあったようで、「会社再建計画変更」反対に拍手が果まっていた。

手直ししようとか、工場を引き揚げるかもしれないと又力していることは全くケシカラン。ワシが市民に代わって江頭社長をオゴリに行くつもりです」と手振り身ぶ

○：大会のメインイベントは同大会の重役役の一人、山口縣人同協議会事務局長の「大演説」。口ころから「だれにでもあたりかまわず独自の水俣非で感情をぶちまける男」がトレードマークだが、この日も「シンから水俣市の発展を願うもんです。水俣病関係の人たち、一日も早く救うことが先決で、チソもいまだに工場再建計画を

市民にまじって大会に気をくばる徳江チソ
水俣支社長(右端)

りの熱弁で、会場のかっさいをあげていた。

○：かたや会場で小さくなっていたのがチソの徳江水俣支社長と佐々木十場長。大会準備委員会から来賓として案内され、ステージの来賓席まで設けられたが、来賓あいさつどころか来賓席にすわることも遠慮して一般席のフロアにすわるという気の配りよう。いつもなら上段にすわる「知名士」もこの日はかなり一般市民の間にまじって神妙な顔つきで大会の進行を見守っていた。

